| 授業科目名・形態 | 病態治療学Ⅰ（放射線）　演習 | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目担当者氏名 | 吉野　浩教・小山内　暢 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | ２年前期 |
| 科目ナンバリング | N3-2008npmht | | | | |

**【授業の主題】**

放射線医学は急速な発達を遂げ，現代の医療には欠かせないものとなっている。しかし，放射線は人間にとって利益ばかりではなく，不利益をも与える両面性を併せ持つ。このため医療従事者は，放射線に関する基礎的知識とリスクマネジメントをよく理解した上で医療を受ける人たちに接する必要がある。本講義では，診療に携わる看護師として必要な放射線の知識と放射線診断・治療の現場において必要となる放射線看護学の基本的事項を学ぶ。さらに，放射線被ばくのリスクと放射線防護を科学的な根拠に基づき理解する。

**【到達目標】**

1. 放射線の基礎知識について理解すること。
2. 放射線画像診断の原理と適応について理解すること。
3. 放射線治療の原理と適応について理解すること。
4. 放射線被ばくによる人体影響と放射線防護について理解すること。

**【授業計画・内容】**

第１回　放射線の基礎，X 線一般撮影の概要（吉野）
第２回　X 線 CT 検査，血管造影，IVR (interventional radiology)の概要と理解（小山内）
第３回　MRI，超音波検査および核医学検査の概要と理解（小山内）
第４回　放射線治療の概要と理解（吉野）
第５回　放射線被ばくと放射線防護（吉野）

**【授業実施方法】**

スライド（パワーポイント），資料および板書にて講義する。
毎回の講義の最初または最後に，講義内容に関する小テストを行う。
質疑形式で進めるので積極的な姿勢で臨むこと。

**【事前・事後学習】**

・講義内容に関する事前学習を毎回２時間以上行うこと。
・講義内容を踏まえ，復習を毎回２時間以上行うこと。

**【主な関連する科目】**

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

**【教科書等】**

系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学（第１０版）　発行　医学書院

**【参考文献】**

特になし

**【成績評価方法】**

筆記試験 70%，授業態度・小テスト等 20%，課題レポート 10%で総合的に評価する。

**【実務経験及び実務を活かした授業内容】**

診療放射線技師としての臨床経験や放射線科学に関する研究経験あり。この経験を活かして根拠に基づいた実践的な授業にしたい。

**【学生へのメッセージ】**

- 予習，復習を十分に行っておくこと。
- 小テストのウェイトは大きいので，しっかり講義を聴き，理解した上で設問に答えること。
- 質問や連絡に関しては，電子メール（hyoshino@hirosaki-u.ac.jp）で随時受け付ける。